

令和6年 京都御所 新春の展示

今回の展示作品

ぐん かくしょうばい
群鶴松梅 なか じま らいしょう 中島来章 筆 安政2年(1855)製作

本展示では、新年にふさわしく、古来瑞鳥として愛でられてきた鶴めの襖ふすま絵8面を展示します。

襖は京都御所の御花御殿の上の間にあるもので、金砂子を用いた霞かすみの中に鶴の群ぐんれが画かれており、北面では松が枝を広げ、西面では白梅が絵に華やぎを添えています。

筆者なか じま らいしょうの中島来章(1796~1871)は、京都で大きな勢力を誇った円山派まる やまの幕末における中心人物で、雅号にも「鶴江堂」と、鶴の文字を用いています。

来章は、同時代の横山清暉よこやま せい けい、岸連山きし れんざん、塩川文鱗しおかわぶんりんと共に「平安四名家」と評されました。



北面



西面



御花御殿



上の間

展示に関する情報

期間

令和6年1月5日(金)から同月8日(月・祝)までの4日間

入門時間

午前9時から午後3時20分まで(清所門の最終退出時刻は、午後4時です)

展示場所

宜秋門番所(別図参照)

参観料

無料

照会・取材申込先

宮内庁京都事務所庶務課

電話:075-211-1211(8:30~17:15平日のみ)

京都御所

御花御殿

「群鶴松梅」
の展示場所

